

新しい学習指導要領  
**生きる力**  
 学びの、その先へ



令和元年度 東京都公立小学校家庭科研究会

## 新学習指導要領における家庭科の学習指導

令和元年5月13日

文部科学省:教科調査官

丸山 早苗



文部科学省

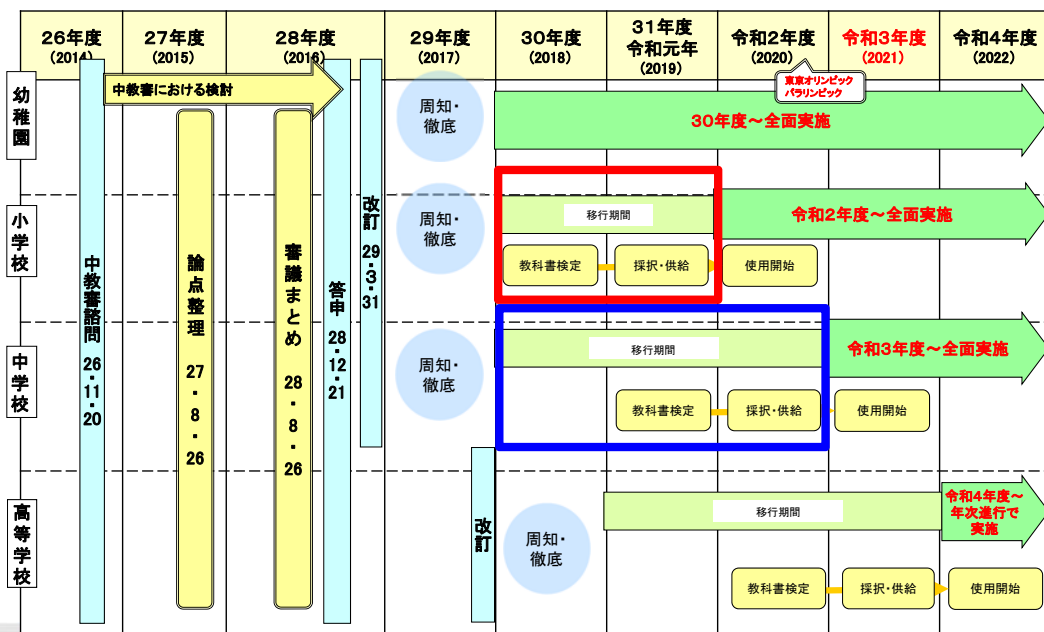
## 新学習指導要領 家庭科の改訂のポイント

1. 目標の改善
2. 内容の改善
3. 指導計画の作成と内容の取扱い
4. 授業改善
5. 移行期間中の実践
6. 学習評価の在り方  
 (学習評価についての基本的な考え方)  
 (学習評価の枠組と改善の方向性)



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
 SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

### 今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール (現時点の進捗を元にしたイメージ)



### 新学習指導要領：子供達の知識の理解の質を高めるための3つのポイント

- 1 各教科等で育成する資質・能力を3つの柱で整理
  - ① 知識及び技能
  - ② 思考力、判断力、表現力等
  - ③ 学びに向かう力、人間性等
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善の推進
- 3 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。  
 特別支援学校学習指導要領(高等部)についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
 SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
 SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 1 目標の改善

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 柱書き

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

「知識及び技能」

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

「思考力、判断力、表現力等」

(3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

「学びに向かう力、人間性等」

5

# 1 目標の改善

## 「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること

### 小学校家庭科における視点

「協力・協働」→「家族や地域の人々との協力」

「生活文化の継承・創造」→「生活文化の大切さに気付くこと」

# 2 内容の改善

## ①小・中学校の各内容との系統性の明確化

旧(平成20年告示)

新(平成29年告示)

A 家庭生活と家族



A 家族・家庭生活

B 日常の食事と調理の基礎



B 衣食住の生活

C 快適な衣服と住まい

D 身近な消費生活と環境



C 消費生活・環境

小学校・中学校ともに、三つの内容とし系統性の明確化を図る

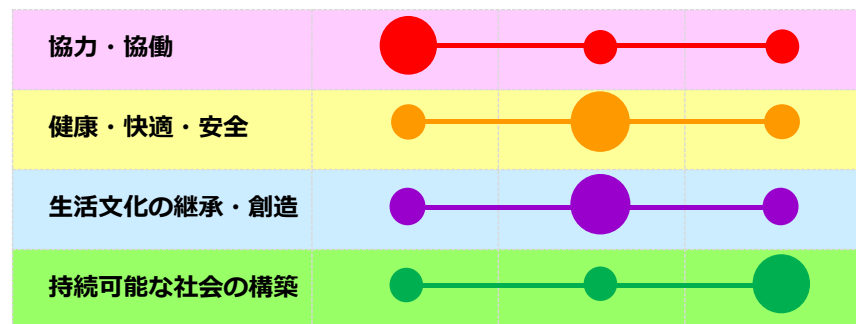
# 2 内容の改善

## 自立し共に生きる生活の創造

家族・家庭生活

衣食住の生活

消費生活・環境



※主として捉える視点については、大きい丸で示している。取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのかは異なる。

## 2 内容の改善

### ②空間軸・時間軸の視点からの学習対象の明確化

#### ○空間軸の視点

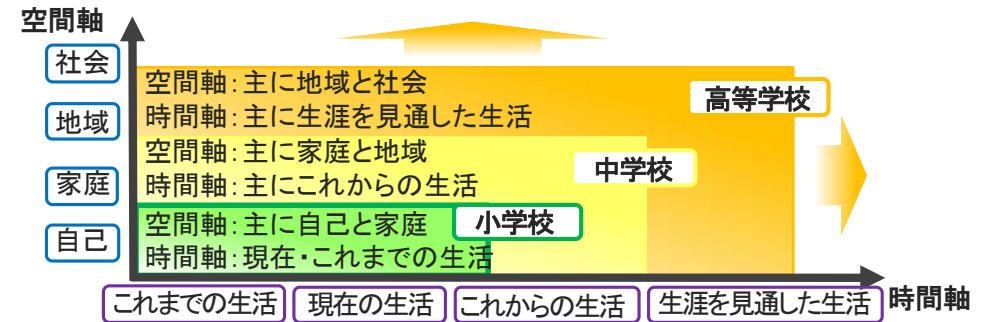
主に **自己と家庭**

#### ○時間軸の視点

主に **現在及びこれまでの生活**

## 2 内容の改善

### ②空間軸・時間軸の視点からの学習対象の明確化



○空間軸の視点:主に **自己と家庭**

○時間軸の視点:主に **現在及びこれまでの生活**

## 2 内容の改善

### ③各内容の各項目で育成する資質・能力の明確化

アとイの二つの指導事項で構成

**ア「知識及び技能」の習得**

**イ「思考力・判断力・表現力等」の育成**

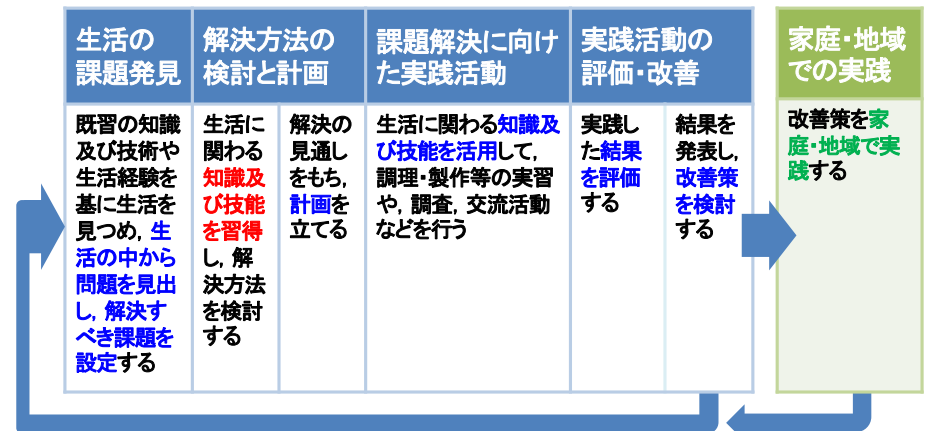
#### A 家族・家庭生活

生活の営みに係る見方・考え方

次の(1)から(4)までの項目について、課題をもって、家族や地域の人々と協力し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

## 2 内容の改善

### 家庭科の学習過程の参考例



\* 上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

## 2 内容の改善

### ④知識及び技能の確実な定着を図るための 内容の充実

#### 調理及び製作の一部題材の指定

「B 衣食住の生活」の内容の取扱い

(2)「調理の基礎」のアの(エ)

ゆでる材料として青菜・じゃがいもなど

(5)「生活を豊かにするための布を用いた物の製作」

日常生活で使用する物を入れる袋などの製作

## 2 内容の改善

### ⑤実生活で活用するための内容の充実

#### A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の設定(新設)

(4) 家族・家庭生活についての課題と実践

ア 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。

「A家族・家庭生活」の(2)「家庭生活と仕事」又は(3)「家族や地域の人々との関わり」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容との関連を図り、課題を設定

## 2 内容の改善

### ⑥「生活の営みに係る見方・考え方」と関連を図った 内容の見直し

「B 衣食住の生活」(1)食事の役割

(4)衣服の主な働き

(6)住まいの主な働き【新設】

「C 消費生活・環境」(1)消費者の役割【新設】

「A 家族・家庭生活」(1)「自分の成長と家族・家庭生活」のアで触れる「生活の営みに係る見方・考え方」との関連を図る。

## 2 内容の改善

### ⑦社会の変化に対応した各内容の見直し

「A 家族・家庭生活」少子高齢社会の進展への対応

➡ 幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わり

「B 衣食住の生活」食育の一層の推進、グローバル化への対応

➡ 栄養・献立、和食の基本となるだしの役割  
季節に合わせた着方・住まい方（日本の伝統的な生活）

「C 消費生活・環境」持続可能な社会の構築への対応

➡ 買物の仕組みや消費者の役割  
（自立した消費者の育成）

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

#### 「A 家族・家庭生活」

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活  
AからCまでの各内容の学習と関連、生活の営みに係る見方・考え方
- (2) 家庭生活と仕事  
「B衣食住の生活」と関連を図り、衣食住に関わる仕事を実践
- (3) 家族や地域の人々との関わり  
幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わり  
他教科等における学習との関連【新設】
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践【新設】  
実践的な活動を家庭や地域で行うことができるよう配慮  
2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

#### 「B 衣食住の生活」

- (1) 食事の役割  
日常の食事の仕方
- (2) 調理の基礎  
ゆでる材料(青菜・じゃがいもなど)、伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理(和食の基本となるだしの役割)
- (3) 栄養を考えた食事  
献立を構成する要素(主食・主菜・副菜)
- (4) 衣服の着用と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作  
日常生活で使用する物を入れる袋などの製作
- (6) 快適な住まい方  
住まいの主な働き【新設】、季節の変化に合わせた住まい方(音)  
暑さ・寒さについては、日常着の快適な着方と関連

### 日本の生活文化に関する内容

- (1) ア 日常の食事の仕方  
➡ はしの持ち方や食器の扱い方、お茶の入れ方・供し方
- (2) ア(ウ)(オ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方  
➡ 和食の基本となるだしの役割、我が国の伝統的な配膳の仕方
- (4) ア(ア) 季節に応じた日常着の快適な着方
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作  
➡ 季節に合わせた着方、ふろしきや手ぬぐいの特徴や使い方
- (6) ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方  
➡ 季節に合わせた住まい方、生活を豊かにする季節の音

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

#### 「C 消費生活・環境」

- (1) 物や金銭の使い方と買物  
買物の仕組みや消費者の役割(売買契約の基礎)【新設】
- (2) 環境に配慮した生活  
自分の生活と身近な環境との関わり、  
環境に配慮した物の使い方など  
内容「B衣食住の生活」との関連を図り、実践的に学習

## 4 授業改善

### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

#### 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること。

#### 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

#### 家庭科の主体的な学び

題材を通して見通しをもち、日常生活の課題の発見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学びである。

そのため、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動などを充実させることが重要である。

#### 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

#### 家庭科の対話的な学び

児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学びである。

#### 深い学び

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

#### 家庭科の深い学び

児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、更に家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びである。

このような学びを通して、日常生活に必要な事実的な知識が概念化されて質的に高まったり、技能の定着が図られたりする。また、このような学びの中で「主体的な学び」や「対話的な学び」を充実させることによって、家庭科が目指す「思考力、判断力、表現力等」も豊かなものとなり、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力が育まれる。

## 新学習指導要領の実現に向けた実践課題

- (1) 2学年間を見通した指導計画の作成
  - ・A(1)ア(ガイダンス, **生活の営みに係る見方・考え方** A,B,Cと関連を図る)
  - ・**他教科等との関連**
- (2) 育成する**資質・能力**の明確化
  - ・**小・中学校の系統性**
- (3) **新学習指導要領について(新設の内容)**
- (4) **資質・能力**の育成に向けた**授業づくり**  
問題解決的な学習(**学習過程**)  
**主体的・対話的で深い学び**の視点からの授業改善  
(**ICTの活用**)
- (5) 家庭, **地域との連携**

25

## 2学年間を見通した指導計画の作成

- (1) 家庭科で**育てたい児童の姿**が明確になっていますか。
- (2) 2年間の**指導の流れ**を考え、**題材を配列**していますか。
  - ・「A家族・家庭生活」(1)の**ア**:第5学年の最初に履修, A, B, Cの学習と関連させる。
  - ・「B衣食住の生活」の**調理や製作**:**段階的に配列**する。
  - ・A(4)「**家族・家庭生活についての課題と実践**」:2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修
- (3) 指導内容の関連を図って**題材を構成**していますか。
  - ・「B衣食住の生活」(6)「**快適な住まい方**」の**ア(ア)**:暑さ・寒さは、B(4)「**衣服の着用と手入れ**」の**ア(ア)**日常着の快適な着方と関連
  - ・「C消費生活・環境」(2):内容の「B衣食住の生活」との関連
- (4) 各題材に**適切な時間**を配分していますか。
- (5) **指導すべき内容に漏れがないか**を確認していますか。

26

## 小学校・中学校のつながりを意識した授業づくり

- (1) **基礎的・基本的な知識及び技能の明確化**
- (2) 5学年間を見通した**指導計画**の作成
- (3) 教材・教具の開発
- (4) 授業研究 (チームティーチングなど)  
実践交流 (児童生徒の実態把握など)
- (5) 合同研修会 (実技研修会 評価研修会)
  - ・**家庭科室の管理**

27

## 他教科等と効果的な関連を図るには

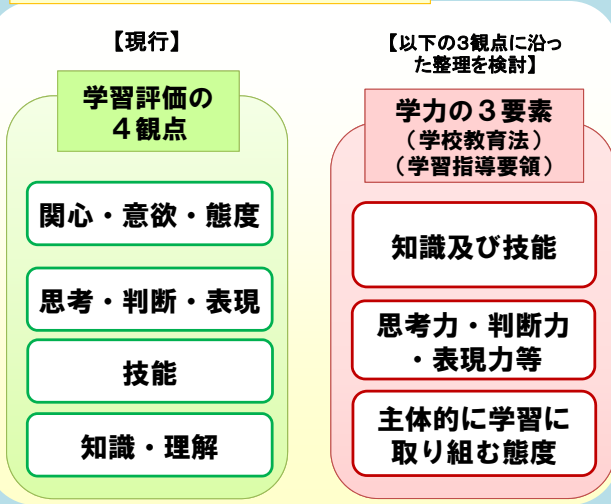
- (1) 他教科等の関連のある**内容を洗い出し**、**学習状況を把握**する
- (2) 他教科等の**学習時期を考慮**して題材を設定  
配列を工夫する
- (3) **指導計画に他教科等との関連を位置付ける**
- (4) **ガイダンス**でこれからの学習の見通しをもたせる

28

## 観点別学習状況の評価について

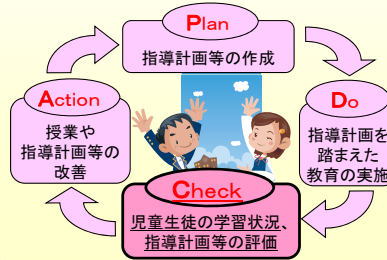
- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。  
→きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

### 学力の3つの要素と評価の観点との整理



### 学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。  
**指導と評価の一体化**



29

## 6 学習評価についての基本的な考え方

- (1) **カリキュラム・マネジメントの一環**としての指導と評価
- (2) **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**と評価
- (3) 学習評価について指摘されている課題

### (4) 学習評価の改善の基本的な方向性

#### 学習評価の在り方について

- ① **児童生徒の学習改善**につながるものにしていくこと
- ② **教師の指導改善**につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、**必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと**

■児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

■平成31年3月29日付け 31文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について」(通知)

## 6 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性

### (1) 学習評価の基本的な枠組み

- ◆ **学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施** (目標準拠評価)

#### 「観点別学習状況の評価」

- ・ 学習状況を分析的に捉える
- ・ 観点別に A B C の三段階で評価

#### 「評定」

- ・ 観点別学習状況の評価を総括的に捉える
- ・ 五段階で評価 (小学校は三段階、小学校低学年は行わない)

- ◆ **観点別学習状況の評価や評定には示しきれないものの評価**

#### 「個人内評価」

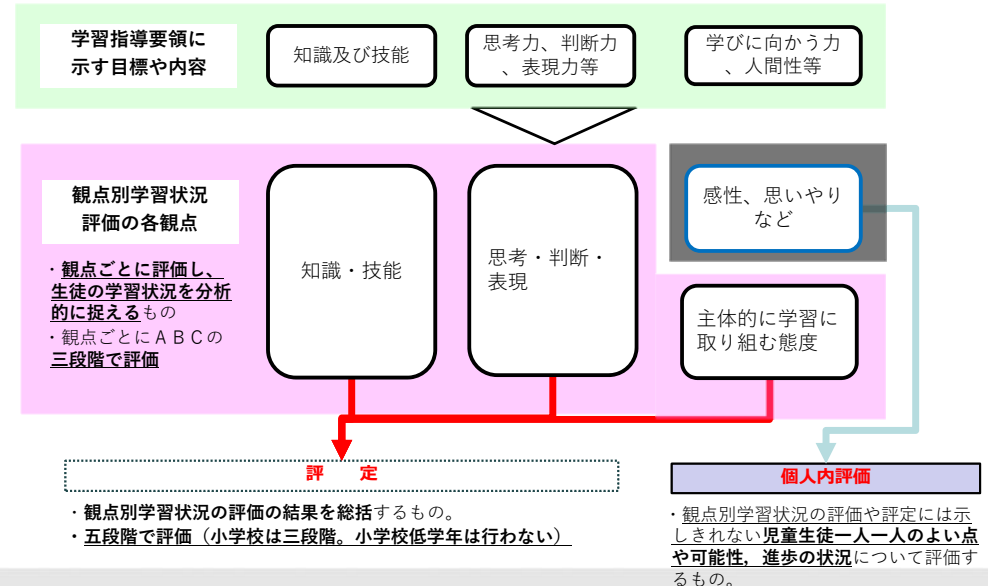
- ・ 児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの

■児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

■平成31年3月29日付け 31文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について」(通知)

## 各教科における評価の基本構造

- ・ 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの (目標準拠評価)
- ・ したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。



## 6 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性

### (2) 観点別学習状況の評価の改善について

#### 「知識・技能」の評価について

- ・知識及び技能の習得状況について評価
- ・既存の知識及び技能と関連付けて活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。
- ・事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮したペーパーテストの工夫改善、文章による説明や、観察・実験など、実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を各教科等の特質に応じて適切に取り入れる。

■児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

■平成31年3月29日付け 31文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(通知)

## 6 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性

### (2) 観点別学習状況の評価の改善について

#### 「思考・判断・表現」の評価について

- ・「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。
- ・ペーパーテストのみならず、論述やレポート、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めてポートフォリオを活用したりするなど、各教科等の特質に応じて評価方法を工夫する。

■児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

■平成31年3月29日付け 31文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(通知)

## 6 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性

### (2) 観点別学習状況の評価の改善について

#### 「主体的に学習に取り組む態度」と「学びに向かう力・人間性」との関係

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取することができる部分
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから「個人内評価を通じて見取る部分」があることに留意する。

■児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

■平成31年3月29日付け 31文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(通知)

## 6 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性

### (2) 観点別学習状況の評価の改善について

#### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
  - ②①の粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面を評価することが求められる。
- これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。
  - 例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。

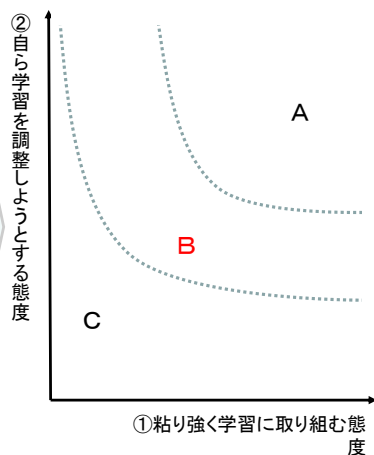
■児童生徒の学習評価の在り方について(報告)

■平成31年3月29日付け 31文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(通知)

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。

○ これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



## 評価の観点及びその趣旨

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。



## 評価の観点及びその趣旨

### 旧(20年度告示)

	家庭生活についての知識・理解	生活の技能	生活を創意工夫する能力	家庭生活への関心・意欲・態度
趣旨	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する <b>基礎的・基本的な知識</b> を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する <b>基礎的・基本的な技能</b> を身に付けている	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。

### 新(平成29年度告示)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から <b>問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</b>	家族の一員として、生活をよりよくしようと、 <b>課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。</b>

### 新しい学習指導要領

生きる力  
学びの、その先へ



令和元年度 東京都公立小学校家庭科研究会

各学校での実践をお願いします！

令和元年5月13日

文部科学省:教科調査官

丸山 早苗